

地方競馬益金事業

題 字 理事長 長野 士郎

平成3年2月10日発行

財団法人

中国四国酪農大学校

電話(0867)66-3651

学 園

だ よ り



校内球技大会

魅力ある学園を目指して

校長 植 月 昌 彦

皆さんお元気で、お過ごしでしょうか遅ればせながら新年の御挨拶を申しあげます。

本校も昭和三十六年十二月に岡山県立酪農大学校として設立されてから本年で三十周年を迎えることになりました。この間、七百三十名の卒業生を送りだし、それぞれに地域のリーダーとして活躍されている様子を良く見聞します。

昨年の全日本ホルスタイン共進会でも卒業生のうち七名の方々が出品され、優秀な成績を収められたことからしても本校の設立目的が充分生かされていると思えます。多少、遅れ気味ですが出品された方々に心からお祝いを申しあげますと共に心から今後の御健闘を、お願いいたします。

一部の卒業生、諸先輩は既に御承知かと思いますが、嬉しい話しを御紹介します。

去る一月十二日、山陽新聞社から第四十九回山陽新聞奨励賞を本校が授賞しました。

「あなた方は わが国 唯一の酪農専門の教育機関として全国から学生を募集 実践的な教育を通して酪農自営者を多数育て わが国の酪農・畜産の振興に貢献されましたここに山陽新聞奨励賞を贈りその功績をたたえます」

多数の卒業生、諸先生などの努力に加え岡山県・地方競馬全国協会などの御理解が認められたものであります。このような賞を戴くのは開校以来、初めてのことで、在校生や現職員、さらには地域の方々ともども心から喜んでおります。授賞を契機にして更に魅力のある学校に育てたいと痛感しております。

昨年の学園だよりで、教育内容や施設の近代化と云う目

的から見直し作業を進めてい

ると、お知らせしました。こ

れも成案を得て次年度から数

年をかけ、実習室、牛舎、学

生寮、本館などの新改築に併

せて、地域のリーダーとして

幅広い知識を身に付けてもら

うため一般教養の充実。酪農

ヘルパーの養成。先端技術の

修得。海外研修。新規就農者

の短期研修や体験学習の受入

れなど、二十一世紀の酪農を

目指した魅力ある学校に向っ

て、理事会・特に岡山県を始

めとする構成各県さらには地

方競馬全国協会の御理解、御

協力を得ながら取り組んで行

くことにしたいと考えており

ます。

最後に、機会を見て御来校

をいただき、学生等に近況を

お聞かせいただきますようお

願いを申しあげます。



教務課だより

本校では、地域リーダー養成を目的として、一般教養の充実や各種資格取得機会を設けるなど教育課程の一部見直しを行ない、実施しました。その主な行事は次のとおりです。

○卒業証書授与式

平成二年三月二五日、第二期生の卒業証書授与式が挙行され、希望に燃える若者二十名が本校を巣立っていきましました。

○第二六期生入学式

平成二年四月五日、新たな時代の酪農を担う若者十三名が入学しました。本年度は、入学者が若干少なかったものの、出身県は、各構成県の外に北海道、大阪など広範囲にわたっていました。

○家畜人工授精及び受精卵移植講習会

平成二年一月から家畜人工授精が、又二月から受精卵移植講習会が開催された。

本校からも第二四期生が人工授精講習会及び受精卵移植講習会に十八名、受講し、人工授精講習会、十八名、受精卵移植講習会、十五名が合格しました。

また、第二五期生も平成三年一月から当講習会を受講中です。

○特別講義の実施

学生の一般教養を高めるため、広範囲にわたる分野の特別講義を実施しました。そのうち主なものは次のとおりです。

〔五月〕

「岡山県の国際化について」

国際交流課

H・フランク女史

〔六月〕

「蒜山の自然について」

写真家 徳山蒜天氏

〔九月〕

「岡山の漆と郷原漆器について」

岡山県郷土文化財団

高山雅之氏

〔十月〕

「自然環境について」

池田隆政氏

〔十一月〕

「放送業務について」

日本海放送 尾崎真美女史

「禅について」

法華政良氏

これらの他に、酪農、畜産情勢や畜産物の流通など岡山県畜政室長や岡山県酪連会長など専門家をむかえ実施しました。また、一月以降も多岐にわたる講義を予定しています。

○削蹄師講習会の実施

従来、削蹄は特別講義で実施していましたが、本年度は、日本装蹄師会の主催による牛の削蹄講習会を本校内で十二月に実施しました。第二五期生のうち十六名が受講し、全員が合格しました。

○レクリエーションの実施

学生間及び職員との親睦を深めるために、毎月一回ソフトボール、バレーボール、バスケットボール、ゴルフ、ボウリングなど球技大会を実施しました。また、一月にはスキー大会を計画しており、学生は皆心待ちにしているようです。

○岡山県民とのふれあい

本年度は「燃える岡山わかものふるさとづくり、牛との



ふれあいコース」の三八名を七月二四日から五日間受け入れました。本校生徒と一緒になつての牧場作業、蒜山登山や一昼夜かけての乳牛動態調査などを実施し、多少なりとも酪農とふれあうことができ、

大変好評でした。

○修業旅行

第二五期生は、修学旅行として十二月に沖縄に行きました。皆、学生最後の旅行を充分に楽しんだようです。



有元一郎 出品牛



松永博視 出品牛



四期 岡山県 有元 一郎

我家のホープ牛、スター、デスチニイ、ヘブン、マリナー号（父 ルアン、トラデション、デスチニイ、ET）も、岡山県代表牛七頭の一頭に選ばれ、五部に出場しました。私が授精し、父や母が手塩にかけて育て、未經産牛で、中国B・Wショー等に出場、上位に入賞していましたが、平成二年八月にスターバックの子を初産分娩して、母牛より体型も良く、良い乳器が付き、F指数は三二三、今はスコーパーを受胎しています。私の母は長野全共に未經産牛で入賞、私も岩手全共に未經産牛で出場しました。今回の熊本全共では経産牛出場だったので管理面で難しい点もありましたが、県庁を初め、県酪連、岡山種牛センター、町、農協等の各界の応援、協力を得て、一日目の審査では、二一三コーナーにかけて、場内アナウンサーに牛が落ち着かず、ノミネートされませんでした。二日目は二回、抜き出され、一気に上位に上がり、一等賞二席に

入賞することができました。もう少し上に行きたかったのですが、全国でベストテンに入ったので次回千葉ではと思っています。岡山県の牛では、一等九席に鏡野町の広田靖彦君が入賞しました。尚、酪大同期の松永君が山口県代表で出場しており、ミニ同期会となり山口県の同期生のようすを聞いたり、又、酪大後輩とも親睦を深めることができました。

次回は千葉県で、十年後は、岡山県で開かれると聞いています。酪農の未来は、酪農家同志の友好は元より、消費者を含めた主婦や、子供達の酪農に対するイメージがキーワードになるような思いがした共進会でした。



第九回 「全日本ホルスタイン共進会」 に出品して」

四期 山口県 松永 博 視

全共とは缶ビール片手に自分勝手な批評を友達と一緒に言い合うものだと思っていた。それがまさか、自分が審査員の目を気にしながら牛をひくとは思ってもいなかった。緊張で汗びっしょりであった。出品牛の母は私の実習先である北海道恵庭市の山縣牧場より導入し、七産して我が家の基礎牛となった牛である。長女（八産目を受胎中）と二女（出品牛）の二頭しかとれなかったのが残念であった。一年前から県内での三回の予備審査を受け、最後の集合審査で決定した時の感激は一生忘れられないであろう。全共での結果（二等賞）はともあれ、市街化区域内での水田酪農でも頑張ればやれるのだというファイトが、又湧いてきたのは事実である。これからも日々努力の毎日である。最後になりましたが、全共会場で大変お世話になった岡山の有元君のご両親や多くの方々はこの紙面を借りて心より御礼申し上げます。



学生だより

「卒業を控えて思うこと」

二十五期生 岡山県 治郎丸 雄一

一昨年の四月に入学して早くも二年間が過ぎて卒業まで数ヵ月となりました。二年生での六ヵ月間の校外研修で、自分がこれから後継者としてどのような酪農をやっていくかという事について深く考えさせられました。

ました諸先生、先輩、同期生、後輩の方々の健康とご多幸をお祈りすると共に母校、中国四国酪農大の発展を心からお祈りいたします。

輸入牛肉の自由化、乳成分の向上、環境問題、労働時間などのさまざまな大きな問題がある中で、コストの低減、規模拡大などこれから自分の夢を地道にやっ行って行きたいと思えます。酪農の前途は決して明るい道ではありませんが、一生懸命にやり、今まで経験したことのない事がおきる中で多くの壁へぶつかることがあると思えます。でも多くの先輩方ならびに先生方の指導を受けて頑張りたいと思いません。

最後に二年間お世話になり



「今思うこと」

二十六期生 岡山県 富田 洋子

私は非農家に生まれ、人生の岐路に立つ度、自分の頭だけでなく周囲まで悩ませて進路を決めてきました。根性はあると自負していたものの、全く牛に触った事もなく挫折そうになる事もありましたが、温厚な学校の方々の支えにより酪農のおもしろさを教えられ、ようやく興味が湧いてきた今日です。

生き物相手で多難な反面、毎日に張り合いがあり、せわしない生活では見逃してしまいうような些細な事にも感銘を受けたりします。顔を擦り寄せてくる牛が堪らなく愛しく思える時がありますね。そんな時は、やはり自分に合った

道を進んできたのだと確信を得ることができません。

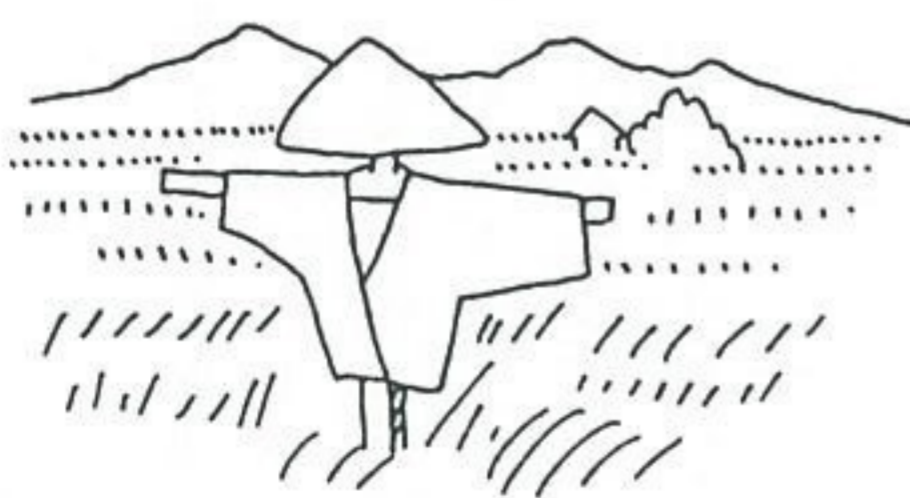
女であれば結婚して幸せな家庭を築きたいと願うのが普通ですが、健康で若さのある今、まだ残された可能性を試し尽くしてみたいと思っております。

農業を志す皆様、この豊かな現状に甘んじるばかりでなく、より良い経営を目指して頑張りました。

「将来を想う」

二十五期生 長崎県 中岡 信治

一昨年の四月にここ、中国四国酪農大に入学して、早いもので二年の歳月が過ぎようとしている。入学当時は、酪農に関心などなかったが、この学校で二年間学ぶにつれ、酪農に対する興味、関心が出てきて、夢、希望が広がってきた。その夢と希望に向け、今春から酪農後継者としてフィールドに立つわけですが、酪農をとりまく情勢は、牛肉自由化、牛乳取引価格の引下げ、消費者ニーズにあわせた牛乳生産といったいくつもの壁を次から次へと乗り越えていかねばなりません。私達がこれからの酪農を背負って行くわけですから楽しく、ゆとりのある酪農を目指して頑張りたいと思っております。



卒業生の皆様、お元気にご活躍のことと思います。さて、恒例になっている第一牧場の近況をお伝えいたします。今年は、北村場長と秋山さんがそれぞれ高梁家畜保健所と笠岡の振興局に転勤になりました。かわって谷田が場長として転入し第二牧場から江田が配属されました。今年の最も大きな出来事としましては、これまで懸案となっていた搾乳牛舎の糞尿処理施設を自然流下式からバンクリナーに改善したことです。約一ヶ月間の工事でしたが、その間、牛は夜もパドックに出したままにしており、半分

づつに分けて搾乳しました。始まる前はどうかと不安でしたが、大きな事故もなく比較的スムーズに終わりました。そして、バンカーサイロを新設しました。搾乳牛舎の西側に一基ありましたが、これに並べてこれまでのものよりやや小さめのものを増設いたしました。今年は、バンクリナーの工事などからトウモロコシの作付が遅れて収量が心配されましたが、幸い、その後の天候が順調で八月中旬には例年と変わらない生育になり、おいに期待していました。しか



表1 飼養頭数

	搾乳牛	乾乳牛	小計	未經産牛 (19ヶ月以上)	育成牛			小計	飼直	肥育牛	合計
					12~18ヶ月	6~11ヶ月	6ヶ月未満				
					平成2年度 1月1日現在	33	5				
平成3年度 1月1日現在	34	4	38	6	8	4	5	23	0	91	152

しながら、台風や長雨で収穫が1カ月遅れてしまいました。本年度後半にロールベアラーが導入されましたので、来年は天候に悩まされることも少なくなるのではないかと思います。家畜の飼養状況と生乳生産状況
平成二年度の飼養頭数として、平成三年一月一日現在の数字を表一に示しました。乳用牛五一頭、肥育牛九一頭と昨年度とほぼ同様の数になっております。生乳の生産量は昨年度末から順調に増加しており、本年度一二月末までで

表2 生乳生産状況

	61年度	62年度	63年度	元年度	12月末
					2年度
1日平均搾乳牛頭数 (頭)	29.7	26.5	27.9	29.6	33.8
1日平均搾乳量 (kg)	564.6	568.4	575.0	593.8	734.8
1日1頭当たり搾乳量 (kg)	19.0	21.4	20.5	20.1	21.7
年間生産乳量 (kg)	206,218.4	207,844.0	209,848.9	216,744.4	(202,072.4)

は二〇二七となっており、第一牧場は、今年も教務課の二人と合わせ五人のスタッフと学生諸君で楽しくやっております。皆様もお近くにおいでの際は是非お立ち寄り下さい。





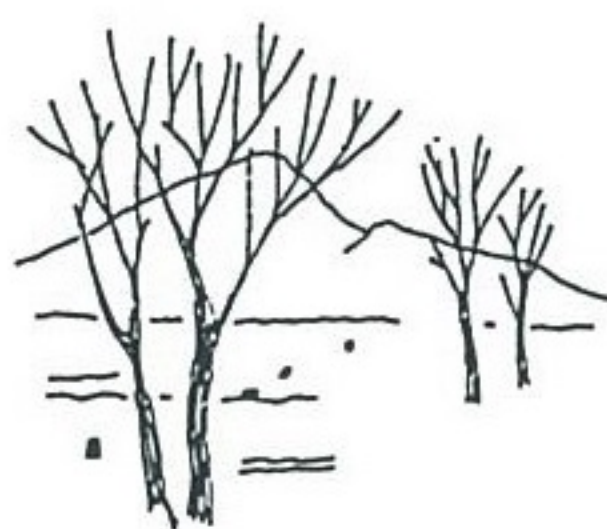
本年は、江田技師が第一牧場に配転になり、新たに新規採用で牧野技師が加わりました。また、酪農大創校以来勤務していただいた三牧助手が平成二年三月をもって退職されましたが、三牧助手には長年第二牧場で学生の指導や牧場の運営に励んでいただき、ごくろうさまでした。平成二年度においては臨時職員としてお世話になっております。

さて、岡山県は本年度三度の台風被害を受けましたが、卒業生の皆様も冬期の粗飼料の確保に苦勞されたと思えます。第二牧場もトウモロコシ

作付面積七・七haのうち六haあまりが倒伏するというありさまでした。そのため品質・量ともに悪くサイレー不足が心配されました。幸い本年度秋にロールベールを導入したためロールサイレーが確保できました。又、十二月初めまで暖冬のため積雪がなく、放牧地でロールを給与することができたためどこにか自給粗飼料だけでの越冬ができそうです。それにしてもスプリングフラッシュの早い訪れが待たれます。

数年来のジャージーブームとも言えそうなジャージー人気ですが、我が牧場もジャージー牛乳の供給面だけでなく、観光面で一般消費者に対する貢献も大きいと自負しております。パーラーでの搾乳見学、あるいはカーフハッチ内の子牛、放牧中の子牛に接する観光客、見学者も年々増えており、一層の環境整備の必要性を感じております。

本年度はパーラーの前に噴水をつくり池には鯉が泳いでおり、事務所の外壁に壁画や案内板を設置しました。十二月二十四日から一月十五日までは第二牛舎入口の松の木にツリーのイルミネーションを一晚中点灯し通行者の目を楽しませました。平成三年度は新たにレンゲ、菜の花を場内に播種しておりますので、レンゲ、菜の花、ライラック、ラベンダー、ヒマワリ、コスモス等と合せて一年中花のある牧場ができたと思えます。今後共、皆様方の来校をお待ちしております。



飼 養 頭 数

(平成3年1月1日)

区分 性別	搾 乳 牛	乾 乳 牛	小 計	未 経 産 牛 (19 カ 月 以 上)	12 〜 18 カ 月	6 〜 11 カ 月	6 カ 月 未 満	飼 直 し	小 計	合 計
雌	72	16	88	14	12	13	19	5	63	151
雄							2		2	2
計	72	16	88	14	12	13	21	5	65	153

平成三年度

学生募集案内についてのお知らせ

- 財団法人中国四国酪農大
校は、西の軽井沢と称される
蒜山高原の広大な自然の中で、
常時約二八〇頭のホルスタ
イ種ジャージー種及び肥育牛
を飼育し、酪農実践教育によ
る技術及び知識の修得、企業
的な経営能力の養成さらには
地域農業の指導的役割を果た
せる健全な酪農自営者を養成
するため、岡山大学、鳥取大
学などの多彩な講師陣を配し
ております。
- 学校では未来の酪農を担う
意欲ある若者を募集していま
す。
- 一、募集人員
四〇名(男女共学 全寮
制)
- 二、就学期間
二カ年(内六カ月間は校
外酪農研修、二カ月間は校
内研修)
- 三、受験資格
高等学校卒業(平成三年
三月卒業見込の者を含む)
及びこれと同等以上の学力
があると認められる者。
- 四、願書受付期間
平成二年一〇月〜平成三
年三月
- 五、選考方法
書類審査、筆記試験作文
及び面接
- 六、特典・特色
①酪農経営士の称号を与え
る。
②家畜人工授精並びに受精
卵移植免許取得機会あり。
③大型トラクター並びに索
引免許取得機会あり。
④削蹄師、毒物劇物取扱者、
危険物取扱者免許取得機
会あり。
⑤全国各地の先進酪農家等
で長期研修を行う。
⑥海外研修制度への参加の
機会あり。
⑦奨学金制度あり(出身県
の制度に準じる)。
- 七、資料請求先
岡山県真庭郡川上村西茅
部六三二(〒七一一〇
六)
財団法人 中国四国酪農
大 学校 教務課
☎(〇八六七) 六六一
三六五一

